

北広島町観光振興まちづくり計画 第2回策定委員会の主な意見

課題	意見
全体的な内容・体制	<ul style="list-style-type: none"> ■「地元愛」が必要という部分は重要。花田舞太郎のテーマソング「おいでよきたひろ」の中にも地元愛が入っていたと思う。 ■最終的に「定住」を見据えている点は面白い。観光事業でも、定住に繋がる施策をやっていくことが重要。 ■総花的という印象がある。ここからどう絞るかが大事になってくる。そのためにも、この計画がどう使われるかを確認しておきたい。 ■北広島町内の各地域によって課題が違う。大朝では拠点づくりをしっかりとやっていくなど、一つずつでも実行することができる計画のほうが良い。 ■課題を一つずつ潰していく形も大事。項目ごとに、具体的にアクションできるものを一つずつでも掲載していくのはどうか。 ■全体的な印象としては目玉事業、強弱があった方が良い。 ■全体構成は資料通りで良いのではないか。組織の部分は4になっているが、全部に繋がる部分なので、横においても良い。 ■サイクリングツアー等は民間が実施することであり、行政は応援することが求められる。行政がやることを明記していくことが必要ではないか。 ■スキー場、宿泊、道の駅など、観光事業者が困っていることが反映できれば良いと思う。
情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ■観光戦略方針では30代女性がターゲットとなっているが、これで良いのか。この観光戦略はいつまで有効か。 (事務局回答) いつまでという期限は無いが、観光戦略方針により統一的なイメージでのPRができています。30代女性(30代を中心に20代～30代)のSNSや口コミなどの情報発信力に期待し、キャッチフレーズやロゴの制作・浸透のために設定したターゲットであり、今後は多様なターゲットごと、事業ごとに考えていく。 ■成果として、30代女性が来たかという点、あまり来ていない。実際に地域での消費が多いのは50～60代女性ではないか。カヌーなどの体験プログラムには20代のグループも来ている。 ■ターゲットを絞る必要はあるのか。ターゲットが多様化している中、様々なターゲットを想定すべき。総花的でも仕方ない。 ■富裕層に向けた計画がないことは気になる。
インバウンド	<ul style="list-style-type: none"> ■外国人観光客の誘客促進はしっかり打ち出したい。

<p>対応</p>	<p>■商談会や旅行会社訪問等、広島県が精力的に動いているが、北広島町についてはパンフレットを持って行くだけで効果が乏しい。町独自の予算で進めていく必要がある。</p>
<p>ライブカメラでの情報提供</p>	<p>■サクラの開花情報について、支所に「現在のサクラの開花状況について教えて欲しい」という問い合わせがあり、現地確認している。ライブカメラがあり、「今」の情報があれば便利だろう。</p> <p>■サクラの時期は短い。短い時期のためにコストをかけるのはどうか。</p> <p>■サクラだけでなくテングシデにも欲しい。冬季積雪情報など、道路情報としても有用。</p> <p>■最近、ライブカメラのコストは非常に安くなっているようだ。</p>
<p>推進体制</p>	<p>■プロジェクトチームの検討内容にもあったが、縦割りの組織の横串を通すような、庁内での情報共有・情報交換の場が必要だ。</p> <p>■支所が観光事業を担う体制にできないか。リアルタイム情報の収集など、各支所に観光担当を置き、地域に密着した情報発信を担ってもらいたい。</p>
<p>受入環境の整備</p>	<p>(宿泊施設)</p> <p>■子プロや体験型修学旅行を受け入れている民泊家庭は、今後減っていくと想定されるため、どうしていくかを考えることも必要。</p> <p>■宿泊施設のサービスや設備にも課題があり、食事、清潔さなど、満足できる状況にあるかは疑問。</p> <p>■笠岡の白石島では、国際交流ヴィラという施設があり、わざわざ離島に外国人が来ている。外国人向けの宿泊施設が1軒でもあれば、外国人客が来る。</p> <p>■ニーズが多様化している中、ターゲットに合わせた宿泊施設が必要だろう。</p> <p>(観光マップ)</p> <p>■先日、「きたひろドライブ」に掲載されている滝山峽に行こうとしたが、道路が閉鎖されていて行けない状況になっていた。マップに掲載されているアイスクリーム屋も営業していなかった。このような場所を観光マップに掲載するのはどうか。</p> <p>■観光マップは、受入側の目と、観光客の目、両方の観点から検討するべきであり、見直しが必要。観光客と受入側の橋渡しとなることが大事。</p> <p>■モデルコースを示せないか。歴史好き、自然好きなど目的別、地域別のコースがあると良い。</p> <p>■マップ作りについては、行政が作ると平等主義となる。芸北では雨に濡れても大丈夫なトレッキングマップを作っており、500円で販売して</p>

	<p>いる。分かりやすい観光マップづくりの会議をしても良いだろう。</p>
<p>定住につながる施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■定住については、仕事の面を考えておく必要がある。事業者が雇用できないという問題がある。 ■観光事業の雇用についても、行政が積極的に取り組めないか。例えば、地域おこし協力隊やみどりの協力隊など、観光事業担当者として採用し、将来的な観光事業の担い手づくりに繋がられないか。島根県邑南町ではレストランのシェフとして地域おこし協力隊員が来ている。
<p>計画に盛り込むべき内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■千代田からの周遊、大朝からの周遊を考える場合、アクセスが悪い。 ■せどやま事業の里山整備、木道整備、赤瓦屋根と田園の景観整備も計画に位置付けておけないか。 ■八幡高原は「全国ふるさと百選」に入っている場所であり、資源として活用していきたい。 ■防犯灯がLEDに変わったが、その影響で明るすぎてホテルや星が見えなくなった。地元からの要望でLEDになったが、観光事業の面から必要に応じてオン・オフできるような工夫ができないか。 ■芸北でもガイドは足りていない。有料でガイドができる人材を養成することも必要。 ■近隣市町との連携は重要であり、修学旅行の共同受入など効果がある。 ■コスプレイヤーの誘客を積極的に取り組めないか。古民家、乗馬クラブ、刀鍛冶などで撮影会が行なわれており、海外からのコスプレイヤーの来訪も期待できる。